

薬剤部

医薬品と 健康食品・サプリメントの飲み合わせ

テレビや新聞などで、毎日のように健康食品やサプリメントの広告を見かけます。最近の調査によると、約3割の人が健康食品やサプリメントを毎日利用し、過去の利用経験を含めると約8割の人が利用したことがあるそうです。みなさんの中にも、健康の維持、栄養成分の補給、ダイエット、病気の予防や治療を目的に利用されている方がいらっしゃるのではないかでしょうか？

ところが、体に良いと思って摂取した健康食品やサプリメントが、かえって健康を害してしまうことがあります。また、健康食品などに頼りすぎてしまい過剰摂取になってしまふこともあります。

特に医薬品を服用されている方は、治療に使われている医薬品の効果を弱めたり、副作用を起こしやすくなったりする場合があるので、注意が必要です。

たとえば、一部の抗菌薬をカルシウムや鉄などの

ミネラル類と一緒に飲んでしまうと、腸管での抗菌薬の吸収が悪くなってしまうために、期待された効果が得られなくなってしまうことがあります。また、血液をサラサラにする抗血小板薬とイチョウ葉エキスを併用すると、効果が増強されて出血しやすくなる可能性があります。こういった医薬品と飲み合わせの悪い健康食品やサプリメントの摂取は避けることが必要です。

健康食品やサプリメントうまくつきあっていくためには、過大な広告を鵜呑みにして大量に摂取するようなことは避けましょう。また、医薬品を服用されており、飲み合わせが心配な方は、薬局の窓口や、健康食品などを販売しているドラッグストアなどで相談してみると良いでしょう。

当薬剤部では、注意が必要な医薬品については、お薬のしおりや薬袋に記載していますので、必ず目を通すようにしてください。



健康食品と医薬品の飲み合わせから想定される事例

健康食品に添加されている 成分・天然植物	医薬品	影響
イチョウ、ノコギリヤシ	+ 抗血小板薬、抗血液凝固薬	= 薬効の增强
ビタミンK(青汁、クロレラ)	+ ワーファリン	= 薬効の减弱
セントジョンズワート (セイヨウオトギリソウ)	+ ジゴシン、ワーファリン、 ネオーラル、イレッサなど	= 薬効の减弱
キトサン、植物ステロール	+ 低用量ピル	= 吸収の低下

※ここに示したものは、ごく一部であり、この他にも様々な健康食品と医薬品の飲み合わせで、薬効の增强や减弱などが起こることがあります。

基本理念

広島市の中核病院として、患者さんの立場を尊重し、質の高い医療を提供します。

～基本理念実現のための3つの柱～

- 患者さんの立場を尊重し、信頼され満足される医療を提供します。
- 地域医療機関との連携のもとに、急性期医療を中心に高度な医療を提供します。
- 健全な病院運営に努め、良質で安全な医療を提供します。

患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

- あなたには、個人として尊重される権利があります。
- あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
- あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
- あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
- あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者が力を合わせて取り組む必要があります。そのために、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることを理解のうえ、ご協力くださいようお願いいたします。

外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
*【眼科】火・木曜日 午前10時00分まで

休診日

土曜日、日曜日、祝祭日、8月6日、
年末年始(12月29日～1月3日)

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか1,570円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

かがやき

NO.27

平成23年3月

編集・発行

広島市立広島市民病院

〒730-8518 広島市中区基町7番33号

TEL / 082-221-2291 FAX / 082-223-5514

ホームページアドレス

http://www.city-hosp.naka.hiroshima.jp/

「病院機能評価」って何ですか？



副院長 石田 治

病院機能評価とは、医療機関の機能を中立な立場で評価し、医療の質の向上を図ることを目的とする第三者機関として平成7年(1995年)に設立された「財団法人日本医療機関評価機構」が行っている評価事業です。

評価項目としては以下のものです。

- 病院組織の運営と地域における役割
- 患者の権利と医療の質および安全の確保
- 療養環境と患者サービス
- 医療提供の組織と運営
- 医療の質と安全のためのケアプロセス
- 病院運営管理の合理性
- 精神科に特有な病院機能

当院は平成18年に初めて機能評価を受審して、認定されました。その後、5年を経過して、認定更新のためこのたび受審となりました。受審のために、私たちは2年前から準備に入り、1年前からは本格的な体制を作つて、各部署で頑張っていました。「頑張ってきました。」というのは、上に掲げた7項目を評価されますので、ここで認定されるためにいろいろなシステムを見直して、必要に応じて再構築して、より安全で良質な医療を提供できるように努力する必要があるからです。私たちは、医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、リハビリのみならず、事務、栄養士のほかさまざまな医療を支える職種、いわゆるコメディカルと呼ばれるすべての職員

が一丸となって、いろいろな観点から病院の態勢を見直してきました。特に今回は患者さんの治療のために、医療サイドからばかりではなく、患者さんとともに治療にあたるというコンセプトで取り組みました。そして、本年1月26日から3日間、病院機能評価を受審しました。

その結果としての全体講評は以下のようでした。

- 救急医療の取り組みは全国に先駆けていて、評価できるものである。
- 薬剤部の病棟での活動は素晴らしい。
- 診療情報・電子カルテの機能は充実しており、監査への取り組みは良い。
- 在宅支援としての相談機能が充実している。
- 地域連携の機能と役割が明確で、活発な支援を行っている。
- 医療安全に関しては、事故発生時の詳細な記録があり、取り組みが良い。
- 医師研修機能が充実している。
- 看護教育は能力開発のシステム運用がなされ、認定教育も計画性がある。
- チーム医療のレベルは高い。
- 療養環境にはアイデアが組み込まれている。

以上のように、高い評価を得ることができました。この原稿を書いている現在は、受審結果の合否はわかつていませんが、今後はいいところは伸ばして、改善すべき点は改良していきます。

形成外科

よりきれいに、より元どおりに、
そして時にクリエイティブな治療をする科、
それが形成外科です。



形成外科で扱う疾患

形成外科は、体の表面の形を変えたり、組織の移植によって修復する診療科です。唇裂・口蓋裂・小耳症・埋没耳・臍ヘルニア(でべぞ)などの生まれつきの疾患や、顔面骨骨折・熱傷などの外傷や、外傷後の傷跡(瘢痕拘縮)の修復、眼瞼下垂(まぶたが開けにくい)や内反症(逆まつげ)などの

眼瞼疾患、あざ・血管腫などのレーザー治療、皮膚ガンや皮膚腫瘍の診断・切除とその修復、頭頸部がんや乳がんなどの切除後再建、顔面神経麻痺の再建わきが・シミ・斜鼻・まぶたのたるみなどの一部の美容的疾患などを扱います。

当科の特徴

- 2010年の症例数は、年間入院患者総数555名、手術件数は1062件(うち全身麻酔429件、局所麻酔629件)、その他にレーザー治療などを314件程度行っております。
- 唇頸口蓋裂: 年間手術件数(2010年、以下同じ)は95件で、中四国でトップクラスの手術実績です。チーム医療を取り入れ、形成外科・小児科・歯科・耳鼻科・矯正歯科が協力して診療を行っています。昨年よりHPも立ち上げましたのでご覧下さい。
<http://hiroshima-kougairetsu.org/>
- 乳房再建: 当科の特徴のひとつで、乳腺外科と協力して行っております。同時再建は年間30件で、これも中四国ではトップクラスの症例数です。自家組織・インプラント両方対応しますが、近年はインプラントの割合が増えています。

スタッフ紹介

名前	役職	主たる診療分野	専門領域
木村 得尚	部長	頭頸部先天異常／唇頸口蓋裂 眼の形成外科	日本形成外科学会専門医／日本形成外科学会評議員 唇裂口蓋裂ガイドライン作成委員
身原 弘哉	副部長	乳房再建／先天異常一般 悪性腫瘍及び再建外科	日本形成外科学会専門医
増田 鋼治	医師	顔面骨骨折／熱傷・瘢痕拘縮 形成外科一般	
辻 祐美子	医員	形成外科一般	

看護部

シリーズ 病棟紹介 西 8 病棟

医師と看護師と患者さんと

西8病棟では、クリスマスや節分に医師・看護師と一緒にミニ行事を行っています。
ほんのわずかの時間ですが、ほっとする一時が持てたらいいなと思っています。

クリスマスのハンドベル



看護師が鬼の面をかぶって各病室で「鬼は外～福は内～」と声をかけ患者さんの笑顔を誘いました。

節分の鬼退治



..... 患者さんからは、こんな声を頂きました

数分でしたが素晴らしい時間を
楽しめさせていただきました。
それ違うだけの患者同士ですが、
一瞬一体になったように思います

看護師・先生を身近に感じることが出来ました。
忙しいのに私達のために有難うございました。
音楽を通じて患者を思いやる人情に触れることができました。
次は医師・看護師・患者同士の交流ができる工夫をお願いします。

人工腎臓センター

人工腎臓センターは、腎不全患者さんの治療(透析療法)を行うためのセンターです。透析療法というのは、腎臓の機能が高度に低下した結果身体にたまつてくる毒素(尿毒素)を取り除き、身体のバランスを整える治療法です。血液を直接処理して身体に戻す方法を血液透析、自分の腹膜(腸や内臓を包んでいる膜)を使って透析する方法を腹膜透析といいます。現在日本全国で、約30万人の方が透析療法を受けておられ、その内の95%が血液透析を選択されています。腎不全の原因疾患としては、以前は慢性腎炎が主体だったのですが、10年以上前からは糖尿病や高血圧など生活習慣病から腎不全になる方も増えています。また、新たに透析を導入される方は年間約4万人、透析予備軍の方は約1300万人に上ると言われています。

当院には33台の透析装置が有り、現在約60名の方の維持透析を行っていますが、新たな透析導入の方が年間約70名、他の医療機関からの紹介受け入れが約100名の状況です。残念ながら透析療法はまだ完全な治療法ではないため、食事や生活の制限など患者さんの協力がないと上手く行きません。腎臓内科では、患者さんの希望やライフスタイルに合わせた透析療法の選択をし、腎臓を守るために食事や生活について指導・治療を行っていますので、腎臓のことご心配があれば是非ご相談して下さい。

